**事業名：学力向上総合対策事業**

**連携地域名：府中市立第一中学校区小中連携地域**

**連携地域を構成する学校**

| 学校名 | 学級数 | 児童生徒数 |
|---|---|---|
| 府中市立国府小学校 | 15 | 327 |
| 府中市立栗生小学校 | 8 | 141 |
| 府中市立旭小学校 | 14 | 275 |
| 府中市立南小学校 | 9 | 160 |
| 府中市立第一中学校 | 15 | 433 |

（H26.11.1現在で記入）

## 1　指導上の課題

《平成25年度「基礎・基本」定着状況調査より(%)》～4小平均

（1）「書くこと」の領域

| 項目 | 校種 | 本地域 | 県平均 |
|---|---|---|---|
| 理由を挙げた記述 | 小学校 | 25.9 | 27.1 |
| 根拠に基づいた考えの記述 | 中学校 | 46.9 | 53.9 |

何を事例に挙げれば書けるのか等，全体の構成を考えて書いたり，適切な接続詞を用いて文章を書いたりすることに課題がある。

（2）無答率

| 項目 | 小学校(県平均) | 中学校(県平均) |
|---|---|---|
| 国語タイプⅠ | 1.5( 3.9) | 3.3(4.6) |
| 国語タイプⅡ | 6.3(13.6) | 6.3(8.1) |

小中とも，タイプⅠと比べ，タイプⅡの無答率が5%以上と多く，自分の考えを書くことに課題がある。

（3）「表現力」の領域

平成24年度と平成25年度の「基礎・基本」定着状況調査における中学校生徒質問紙を比較すると，「表現力」の領域では全質問項目の肯定的評価の割合が平均 8P減少している。

（4）平均通過率30%未満の児童生徒の割合

| 項目 | 小学校(県平均) | 中学校(県平均) |
|---|---|---|
| 国語 | 2.5(2.8) | 0.0(2.8) |
| 算数・数学 | 1.9(3.5) | 2.3(6.0) |
| 英語 | | 2.3(4.5) |

平均通過率30%未満の児童生徒の人数が，小学校国語・算数，中学校数学・英語において3～4人いる実態がある。

## 2　研究の概要

（1）研究テーマ及び研究のねらい

学び合い、規律ある授業づくり
～言語活動（書く活動等）を通して～

昨年度から継続した取組として，学習しやすい環境づくりや課題となる書く力を付けるために，相手意識を持った伝え方，自分の考えを基にした意見の交流など書く活動を中心とした言語活動を行っていくことが必要であると考える。これらのことを通して，児童生徒の学力を向上させることがねらいである。

（2）取組の重点項目

【教科指導】

「『書く力』の育成」を取組事項とした。中学校 3年生での目指す姿「教育活動全体を通して，『まとめ』『振り返り』を，自分の考えや気持ちが正確に伝わるように書くことができる。」の達成に向け取り組んだ。

【生徒指導の三機能を活かした授業づくりの基盤】

「『伝え合う力』の育成」を取組事項とした。中学校 3年生での目指す姿「相手の考えを共感的に受け止めながら，自分の意見と比較して活発な話し合いができる。」の達成に向け取り組んだ。

【家庭・地域と連携して取り組む事項】

「家庭学習の充実」を取組事項とした。中学校 3年生での目指す姿「個人の課題に応じて取組内容を自ら考え，次の授業につながる家庭学習ができる。」の達成に向け取り組んだ。

## 3　実践事例

【教科指導】

（1）具体的な取組内容

①「振り返り」の徹底

・「書く力」を育成するために，授業の「振り返り」を「学習方法」と「学習内容」に整理し，教職員の共通認識を図った。また，昨年度作成した「府南学園　授業モデル【型】」に付け加える形で，「府南学園　授業の流れ」としてまとめ，統一的に小中で実践した。

・1つの授業で指導者が想定した「振り返り」と，児童生徒が書いた実際の「振り返り」を小中で交流し，「めあて」と「まとめ」の整合性を図り，適切な「まとめ」「振り返り」を書かせるための協議を行い，取組の徹底を図った。

・「振り返り」のモデルを作成し，児童生徒に提示して参考にさせた。

・研究授業及び研究協議会において，協議の柱を，「『めあて』に対応した『まとめ』を行うことができたか。」「児童生徒に，学習内容や学習方法についての『振り返り』を行わせることができたか。」と設定し，問題点や改善策について協議し，取組の深化を図った。

②ノート指導（ノートフェスティバル）

・平均通過率30%未満の児童生徒を対象に，「対象児童生徒の実態」「ノートの実際」「今後の取り組みの方向性」について，小中それぞれレポートを作成し，実践を交流することで，「書く力」の育成を図った。

・授業に「見通し」を持たせ，児童生徒の学習意欲を高めるために，「めあて」と整合性のある「まとめ」を書かせ，ノート指導・授業改善に生かした。

・昨年に引き続き，全児童生徒へ「学習の手引き」を配布し，モデルノートを示した。

（2）検証

《国語タイプⅠ　領域『書くこと』》

| | 小学校(県平均) | 中学校(県平均) |
|---|---|---|
| H26. 6「基礎・基本」より | 73.1(66.4) | 79.7(65.0) |
| H26.12「調査問題」より | 71.3 | 85.8 |

適切な接続詞を用いることに課題がみられる。

《国語タイプⅡ　領域『書くこと・読むこと』》

| | 小学校(県平均) | 中学校(県平均) |
|---|---|---|
| H26. 6「基礎・基本」より | 71.9(62.2) | 79.9(73.5) |
| H26.12「調査問題」より | 61.8 | 85.8 |

正しく引用したり，自分の考えを具体的に書いたりすることに課題がみられる。

《算数・数学　記述問題》

| | 小学校(県平均) | 中学校(県平均) |
|---|---|---|
| H26. 6「基礎・基本」より | 66.6(60.9) | 58.3(52.7) |
| H26.12「調査問題」より | 61.8 | 74.2 |

理由の説明を記述する問題について課題がみられる。

《児童生徒質問紙》「教科の勉強は好きです。」（全教科平均）

| | 小学校（県平均） | 中学校（県平均） |
|---|---|---|
| H26．6「基礎・基本」より | 82.8(71.3) | 54.7(64.5) |
| H26.12「調査問題」より | 86.8 | 61.3 |

すべての教科において数値が上昇し，学習意欲が向上した。

《児童生徒質問紙》「授業では，学んだことの振り返りをしています。」

| | 小学校（県平均） | 中学校（県平均） |
|---|---|---|
| H26．6「基礎・基本」より | 87.1(68.3) | 74.8(57.9) |
| H26.12「調査問題」より | 88.4 | 80.1 |

毎時間あるいは単元のまとまりごとに学んだことを振り返ることは，定着している。

【生徒指導の三機能を活かした授業づくりの基盤】

（1）具体的な取組内容

①取組の共通認識

・研究授業及び研究協議会において，「生徒指導の三機能」に焦点を当てた協議グループを設定し，各校の生徒指導担当者を中心に，集中的に協議をした。また，協議の柱に，「『生徒指導の三機能』を活かした授業展開であったか。」を設定し，問題点や改善策について協議し，取組の深化を図った。

②「生徒指導の三機能を活かした授業評価表【府南学園版】」による授業研究

・学力向上総合対策協議会で，「授業に，生徒指導の三機能を活かす手だて」について協議した内容を，授業評価表として整理し，研究授業及び研究協議会で活用した。

（2）児童生徒の変容

《児童生徒質問紙》「相手や目的に応じた話し方をしています。」

| | 小学校（県平均） | 中学校（県平均） |
|---|---|---|
| H26．6「基礎・基本」より | 88.7(79.8) | 79.7(86.1) |
| H26.12「調査問題」より | 88.8 | 87.1 |

相手意識を持つことが定着してきた。

《児童生徒質問紙》「自分とちがう意見も受け入れながら，自分の考えを話しています。」

| | 小学校（県平均） | 中学校（県平均） |
|---|---|---|
| H26．6「基礎・基本」より | 82.8(74.2) | 72.4(73.0) |
| H26.12「調査問題」より | 88.8 | 71.0 |

自分とちがう意見を受け入れることに中学校は課題が残った。

【家庭・地域と連携して取り組む事項】

（1）具体的な取組内容

①家庭教育支援アドバイザーとの連携

・家庭教育支援アドバイザーは，児童生徒の行動観察を通して学級担任などへの指導助言を行い，また，問題行動等のある児童生徒の保護者に対して教育相談を実施した。さらに，必要に応じて関係機関（東部こども家庭センター，スクールカウンセラー等）と連携した。

②取組の共通認識

・学力向上総合対策協議会において，家庭学習の充実に向けた協議を行い，指導対象（児童生徒・保護者），指導内容（全体・個別）について整理し，小中で共通認識を図った。

・予習・復習の意識化を図り，児童生徒が自覚して取り組めるよう指導した。

③「家庭学習の手引き」の配布・指導

・発達段階に応じて家庭学習時間のめやすを設定したり，生活の三点（起床・就寝・学習開始時間）を固定したりするなど，生活リズムを意識させる取組を行った。

・家庭学習の重要性を保護者向けに発信し，単発に終わらないように，年間を通じて機会をとらえ，学校と保護者の協力体制を築くよう取り組んだ。

（2）児童生徒の変容

《児童生徒質問紙》「家では，1日1時間以上勉強しています。」

| 小学校 | H25(%) | H26(%) |
|---|---|---|
| 平日 | 49.5 | 71.5 |
| 休日 | 33.7 | 43.0 |

| 中学校 | H23(%) | H26(%) |
|---|---|---|
| 平日 | 26.5 | 65.0 |
| 休日 | 35.1 | 55.3 |

各学年における家庭学習時間のめやすが定着してきた。

《児童生徒質問紙》「学校の授業の予習をするようにしています。」

| | 小学校（県平均） | 中学校（県平均） |
|---|---|---|
| H26．6「基礎・基本」より | 70.9(55.6) | 30.9(38.1) |
| H26.12「調査問題」より | 78.3 | 40.3 |

中学校はまだ不十分ではあるが，予習をする習慣がついてきた。

## 4　研究の成果と課題等

（1）成果

○教職員対象の「重点項目に関するアンケート」で，平成26年7月と12月の結果を比較すると，「『書く力』の育成」に関する項目で，小学校は9.7P，中学校は1.8P上昇している。「めあて」と「まとめ」の整合性を図り，「振り返り」を充実させることは，教職員の授業改善の観点からも有効であった。

○平成25年度と平成26年度の「基礎・基本」定着状況調査における中学校生徒質問紙を比較すると，「表現力」の領域では全質問項目の肯定的評価の割合が平均 4.7P上昇した。さらに，12月に実施した調査問題における生徒質問紙では 4.6P上昇していることから，授業において「伝え合う」場面を効果的に設定することで，相手意識をもって自分の考えを伝えられるようになり，表現力が向上した。

○家庭教育支援アドバイザーと連携（継続的に支援している児童生徒について行動観察する。それに基づき担任・管理職等と意見交換。必要に応じ保護者面接，関係機関との連携，家庭訪問の実施）し，学校・保護者等への助言や，関係機関とのケース会議など，効果的な取組を進めることができた。

（2）課題

●数学の記述問題で，事柄が成り立つ理由を説明する問題（中10）の平均通過率はH26.6時点で37.4%（対県比+6.2P）であった（H26.12時点では60.0%に上昇）。また，生徒質問紙では「自分の考えや意見を，具体的な例をあげ順序に気をつけながら話しています。」の質問に肯定的に回答したのはH26.6時点で52.8%（対県比-9.5P），H26.12時点でも58.9%（対県比-3.4P）であった。このことから，説明すべき事柄について，その根拠を示して理由を説明する場面で，論理的な思考力，表現力に関して課題がみられる。

●「基礎・基本」定着状況調査における平均通過率30%未満の児童生徒の割合が，小学校では2教科平均 H26.6時点で0.7%（昨年同期比-1.5P），中学校では3教科平均 H26.6時点で4.1%（昨年同期比+2.6P）であった。また，H26.12実施の調査問題で平均通過率30%未満の児童の割合を領域別に見てみると，国語「読むこと（10.1%）」，算数「量と測定（21.9%）」に課題がみられる。

（3）今後の改善方策等

◎児童生徒の思考力・判断力・表現力の向上をめざし，授業において見通しを立てたり，振り返ったりする学習活動を重視することを通して，児童生徒が主体的に学習を進められるように，単元全体をとらえた授業改善を図る。

◎進路実現に向けて基礎学力を向上させ，「平均通過率30%未満の児童生徒の割合0」の達成をめざす。そのために，児童生徒のレディネスを把握したり，小中教職員による連携指導を行い，課題を共有したりすることを通して，指導方法の工夫改善に生かす。